



<来週の資金需給予想とイベント予定> (単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/29 (月)	▲ 1,100	+ 1,400	+ 300		国債補完供給 + 2,300		日：金融政策決定会合における主な意見 (12月18・19日分)
12/30 (火)	+ 200	▲ 6,300	▲ 6,100				米：FOMC議事要旨 (12月9、10日開催分)
1/5 (月)	+ 3,000	▲ 14,000	▲ 11,000	国債発行償還 (2年)			
1/6 (火)	+ 3,000	▲ 5,000	▲ 2,000				欧：ユーロ圏PMI (12月)
1/7 (水)	+ 3,000	▲ 44,000	▲ 41,000	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行 (10年) 法人税・消費税・保険料掲げ	共通担保 ▲ 8,000		米：ADP雇用統計(12月) 欧：ユーロ圏CPI (12月)
1/8 (木)	+ 2,000	+ 1,000	+ 3,000				日：日銀支店長会議 米：貿易収支 (10月) 欧：ユーロ圏失業率 (11月)
1/9 (金)	+ 3,000	▲ 8,000	▲ 5,000	国債発行 (30年)			米：雇用統計 (12月) 欧：ユーロ圏小売売上高 (11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比 4 兆 3,500 億円増加の 472 兆 9,700 億円から始まった。その後、国債買入オペ等の要因により増減し、26日は 473 兆 2,300 億円（速報）で越えた。

無担保コール ON 物加重平均金利は週初、0.727% から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は 1W～3W 物 0.720%～0.900% のレンジ、1M～3M 物 0.805%～0.970% のレンジで出合が見られた。

来週・再来週の予定は、国内では、12月29日に金融政策決定会合における主な意見（12月18・19日分）の公表、海外では1月7日にユーロ圏CPI（12月）の公表、9日に米雇用統計（12月）の公表などがある。

<レポ>

足許GCIは週央まで+0.74%～+0.745%の狭いレンジで取引された。買い入れオペのあった24日は前場に+0.735%から出合い始めたが、bidが一巡した後場には+0.755%まで上昇した。翌25日から週末までは+0.74%～+0.745%での出合いとなった。SC取引は2年470～479回債、5年155～181回債、10年356～371、378～380回債、20年110～130回債30年86～88回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約3兆2,280億円で、週間償還額の4兆570億円を下回った。発行残高は、先週末時点の24兆8,656億円から、12月25日時点で25兆3,214億円へと増加した。発行市場では、不動産業・食料品・機械をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.70%台後半から0.80%台、3か月物で0.80%台から0.90%台など、幅広い水準での取引が確認された。

来週から1月9日までの償還額は、約7,800億円となっている。発行市場は、期明けの調達再開で、相応の発行が見込まれる。発行レートは、利上げ後の四半期明けで投資家の運用再開ニーズも高まることから、市場は引き続き水準を慎重に見極める展開となるだろう。

<TDB>

今週は国庫短期証券の入札は行われなかった。来週以降は1月6日・9日に3M、8日に6Mの入札が予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ～ 0.728
1M	0.775 ～ 0.85
2M	0.78 ～ 0.85
3M	0.82 ～ 0.90
6M	0.90 ～ 1.00

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.80 ～ 1.00